

「覚り」のさまざまな表現 (森章司『仏教的ものの見方』15頁より)

⑤

「tattva」 = それがそれとしてあること
(タットヴァ)

「satya」 = ありつつあること
(サティヤ)

「yātha-bhūta」 = それがそれとしてあるように
(ヤターブータ)

「自然」 = 自ずからしからしむ(そのまま)

「如実知見」 = あるがままに見る

⑦



そうだ。だから私は「無我」と言うのだ。

そのように「ありのままに見て」、執着を離れて安らかな境地に入るのである。

無常 ⇨ 苦 ⇨ 無我 釈尊

なるほど、分かりました。

ラーフラ

迷い

⑥



それが
それとしてある

8時であると知らない
「真実を知らない」

むしろ、
6時と思っている
(思いたい)



それが
それとしてある

8時であると知る
「真実を見る」

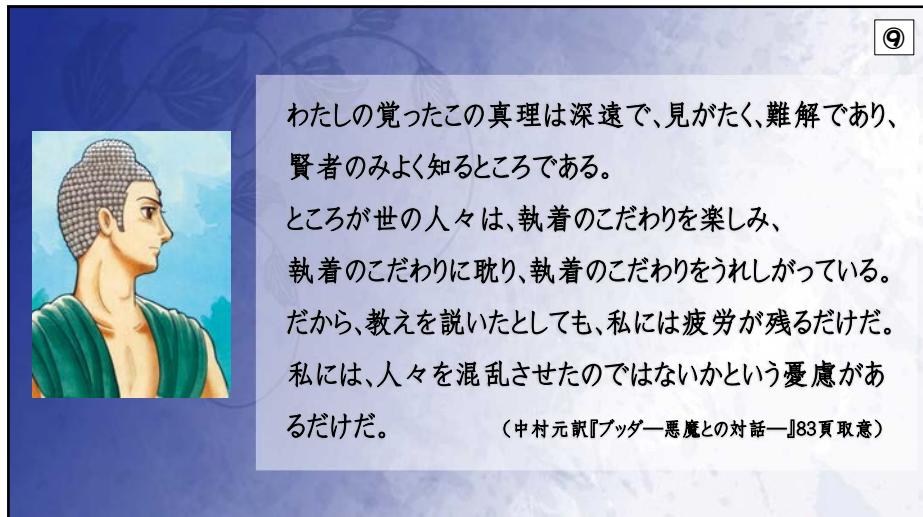
「目覚めた者」=「ブッダ」

⑧

「hypnosis」 Mr.Children

全てが思い通りに
ならぬことくらいは
知っているつもり
でもすんなり
受け入れられもしないから

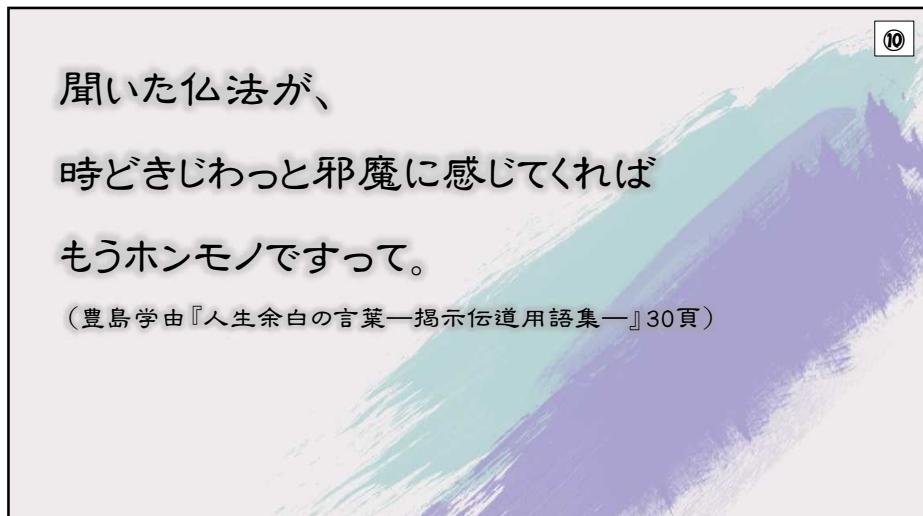
自分に潜んでた狂気が
首をもたげて
牙を剥き出し
遠吠えをあげる
もう手懐けられはしないだろう



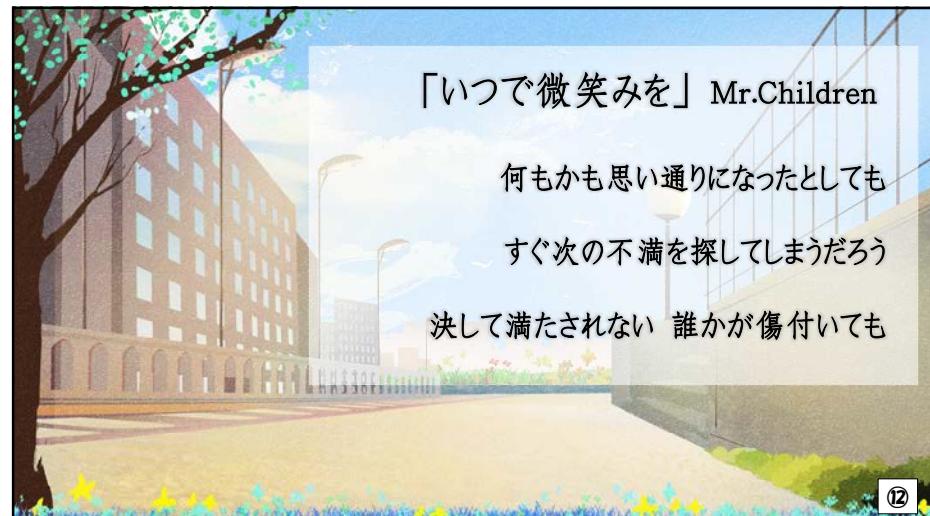
⑨



⑩



⑪



⑫

⑬



論文
「親鸞教義に於ける信心の智慧(三)」
(『印度学仏教学研究』30号<2>1982年)

内藤知康
(1945~)



スゴすぎるぜ！！

⑭

仏(ブッダ)

執着すべきでないものに執着しない　ニ　覺り・安らぎ　月

本願を聞く人(信心の智慧)

執着すべきでないものを、
執着すべきでないと知る　ニ　悲歎・慚愧　日

本願を聞く前の人

執着すべきでないものに執着する　ニ　苦しみ　曜日　日直

|||

